

少人数教育に関わる工夫や効果ある取組等についての実践事例

いわき市立平第一小学校

1 学力向上のための方法と実践内容

(1) 国語科・算数科における学力向上のための方法

- ① 国語科では、文章の読みをもとに、自分の考えをしっかりと持ち、それを伝え合う活動を通して、想像力、思考力を高め合う授業をする。
- ② 算数科では、学んだ知識や技能をもとに、考えたり表現したりする活動を通して、算数を活用するよさや数学的に考えるよさを味わうことができる授業をする。
- ③ 算数科の少人数教育における「T・T」、「個別・課題別・習熟度別学習」への取り組みを積極的に推進する。

(2) 実践内容

- ① 「読むこと」と「書くこと」の関連を図りながら、読みに対する自分の考えをノートにまとめ、根拠を明確にしながら自分の考えを伝え合う活動を通して、互いに認め合い、深め合うことができるようにする。
- ② 既習内容や解決方法をもとに新たな課題に対して自分の考えをまとめ表現できるように習得型の学習において確実に基礎基本の定着を図るとともに、解決方法を身につけさせる。また、互いの考えを共感的に理解し合える話し合い活動を授業に取り入れる。
- ③ 児童の実態に応じたT・T指導による効果的な学習の実現化。

2 少人数教育における学力向上のための実践とその成果と課題について

(1) 国語科・算数科の実践

① 国語科の実践

- 「読むこと」と「書くこと」の関連を図るために、読みに対する自分の考えをノートにまとめる時間を授業内に多く取り入れた。
- 読んで分かったことや感じたことを互いに話し合わせ、考えを共有する場を設定し、書いたことを話す場面を多くすることで自分の考えを深めるようにした。

② 算数科の実践

- 既習内容や解決方法をもとに新たな課題に対して自分の考えをまとめ表現するために、授業の中に「考えをつなぐ」話し合い活動を取り入れた。
- 考えをまとめたノートをもとにペアで話し合い、互いの考えを共有し、全体で話し合い理解を深めるようにした。
- 算数科では個人差が大きいので、常に問題数を多く用意し、上位児童へは学習の習熟を図り、下位児童へは個別指導による基礎基本の定着に努めた。

(2) 国語科・算数科の成果と課題

① 国語科の成果と課題

「読むこと」の領域に関する単元テストにおいて、1学期はじめは60点台だったA児童が国語科の実践テーマである「読みに対する自分の考えをノートにまとめる学習」を繰り返し取り組み、80点台をとれるようになった。引き続き「読むこと」と「書くこと」を関連させ、自分の考えを話せる場を数多くを設定していきたい。ただし、学級によっては、言語に関する習得が他の領域より劣っているため、漢字の定着や国語辞典を使った学習、学校図書館の活用にも努めていきたい。

② 算数科の成果と課題

単元テストの結果をみると「知識・理解」及び「技能」の領域において、ほとんどの児童が8割以上の点数を取ることができている。週3回のT・Tの授業でよりきめ細やかな指導を行うことができた。児童にとって、「分からないところを安心して聞くことができる場」や、上位児童への「発展問題」を充実させ、個に応じた指導の充実にも努めたい。

また、授業中はペア学習やグループ学習などの、児童が「自分の考えを発表したり、伝え合う場」などの学び合いの場面を多く取り入れることで、「数学的な考え方」の領域で正答率が向上してきている。引き続き、児童の「思考力・表現力・判断力」が養われていくように教材の充実や授業の展開の工夫をしていきたい。

3 その他の工夫例

○ 児童の実態に応じたT・Tの指導による効果的な学習の実現化

算数の学習で、個に応じたきめ細やかな指導ができるようにするために、週3時間、T・Tでの指導を実施している。T・Tでの指導では、特に以下のような点に留意して実施してきた。

① 数量や図形等、児童に具体的なイメージが持てるような教具の準備	○ 位取りの仕組みが視覚的に分かるように、数カードや位取り表を作成した。その位の数が10個集まると次の位に進むことを理解するのに効果的だった。また、大きな数の加減法や、かけ算の筆算の学習でも、位ごとに計算することを理解するのに効果的だった。 タングラムの学習では、黒板に掲示する図形を準備した。児童は黒板のヒントを参考にしながら、図形を考えることができた。
② 児童の理解の仕方や、学習スタイルに応じたコース別学習の実施	○ 課題を解決する際に、自力で課題を解決し発表の準備をするコースと、教師の支援を受けながら課題を解決するコースを設定し、児童の実態に応じた学習を進めることができるようにした。 また、単元の学習が進み習熟を深めるような学習の際にも、自力で進めるコースと、教師と一緒に進めるコースを設け、児童の実態にあった学習ができるようにした。
③ 学習した内容を習熟させるための課題の準備	○ 学習した内容を児童に定着させるために、プリント等の課題を準備した。数多く問題を解くことにより、学習した内容を確実に定着させることができた。